



法の光 (法光山 妙勝寺 通信)

No.254

2021年(令和3年) 2月 1日発行

文責 大岩 清人

—朝日の本堂半鐘—

穏やかな年になりますように

年明けから緊急事態宣言が出され、また窮屈な生活が余儀なくされました。

松の内に「ご先祖にお参りさせて下さい。」年に数回お参りされる働き盛りの男性です。関西を中心に好み焼きチェーン店の経営に携わられています。お参りを済ませ本堂から下がられて少し立ち話をしました。

「お仕事大変でしょう。」「はい。お客さんが少なく東京のお店は2割です。緊急事態宣言が出たので時短協力金が出るのでましですが、家賃にはほど遠い額です。」「TVでも多くの店主がそう話されていますね。」「いつか回復するだろう・・・と耐えなければいけません。この様な事態になってこれまで支えてくれた従業員のことが優先課題になりました。みんなの生活をどうするか・・・。」「従業員さんが多ければ負担が大きいですね。」「無理を掛けるかしれませんが、みんなで乗りきろうと話しています。こうなって一番大切なことが健康だとつくづく思います。健康であれば色々な智慧と新たなアイデアが生まれます。」「お寺も大変ですが、耐える時期と思って乗りきりましょう。」「ご先祖に感謝する気持ちは今までより強くなりました。今日もお参りできて穏やかな気分になりました。」と帰って行かれました。



TVではコロナとアメリカ情勢が大きなニュースとなりました。トランプがアメリカ社会をいとも簡単に分断し、「選挙結果はごまかしだ。」とゴジャが通るようにしてしまいました。ペンス副大統領も共和党員もトランプに愛想をつかしてしまいました。

民主主義の先導者と誇る国で、いとも簡単に民主的とはいいがたい、低次元の国民集団だったのか・・・と落胆しました。

中国もしかり、韓国もしかりです。しかし、日本の戦前の動きを思い返せばそうも言っていない過去がありました。この事を棚上げにして批判することは出来ません。歴史の通過点なのか？歴史は繰り返すなのか？

コロナ感染が落ち着き、オリンピック・パラリンピックが開催でき、自由にものが言え、人権が尊重され、礼節を知る穏やかな世界になる事を願います。



鐘楼堂 棟上げ式

戦争で釣り鐘を抛出してお堂は解体され礎石だけになっていました。日野氏から機材の寄進を受け、1979年(昭和54年)再建された時の写真です。

上の写真から鐘楼堂のすぐ北側に土塀があり、その奥にトイレ、そして水屋の建物がありました。今は右の写真のように進入路となっています。先代の一妙院・筆頭総代前野四郎氏・総代壺阪寿氏・総代平田勇治氏の顔も見られます。



寒さについて小学生登校

クリスマスを迎える頃になると、朝の冷え込みが増し、終業式を迎える日、小学生の声が元気づいているように感じる。クリスマス・お正月と二学期のあとに大イベントが待っているからである。「そう言えばあの時のワクワク感が今でも残っている・・・。」と登校する小学生を見送りながらあの頃に回帰した。

晩年を迎える今ワクワク感は何だろう・・・？

同級生の友が「孫が来るんや。クリスマスのプレゼントにこれが欲しいと連絡してくるんや。買いに行ってくるわ。」と嬉しそうに話す。孫が帰ってくることでワクワク感を感じているようだ。お盆と正月は子供達と孫が帰ってくる・・・。毎年2回の顔見せが自分の家族を意識する時でもある。その友が「また一人孫が出来よるんや。」と家族が増える喜びを語る。

お正月・ひな祭り・端午の節句・お盆・運動会・学習発表会・マラソン大会・クリスマスと子供が学校に通っている頃は行事が多かった。

1年が坦々と過ぎるような年齢となり、時節の行事が重きをなさなくなつて、登校する小学生のその日その日の賑わいから「運動会か・・・。」「今日は学習発表会か・・・。」と想像して過去のワクワク感を思い出している。

コロナに感染したら？濃厚接触者になったらどうする？

もし、家族が感染したり、濃厚接触者として自主隔離する時はどうすれば良いのでしょうか？無症状であっても外出は出来ませんから、親戚や親しい知人に連絡して日々の生活物資を買い物して届けてもらう必要があります。

単身遠方で仕事や学校に行かされている場合は、保健所にコロナウイルス感染症生活支援事業として食料品や日用品の買い物代行などの支援があるそうです。

市町村によっては、独自に支援活動を確立されている自治体もあります。買い物の他、薬を取りに行ってくれたり、健康状態の確認をしてくれるところもあるようです。宍粟市に尋ねると「宍粟市は戸別にはしていません。親戚にお願いするとか・・・。」という返事でした。経済的負担を軽減する緊急対策はありますが生活上の対策は無いのです。

「もしコロナにかかったら・・・こうして下さい。」という具体的な家族支援マニュアルはありません。宍粟でも多くの感染者が出ました。大変な思いをされたことでしょう。もっと市民に寄り添った対策があつてほしいものです。もしもの事を考えて我々がシミュレーションをしておく事が必要です。

令和3年の節分と星祭り祈願会

立春の前日が節分です。今年は2月2日です。2日になるのは1897年2月2日以来、124年ぶりの出来事なのです。何故違うのかは地球が太陽の周りを回る公転周期にズレがあるためだそうです。(閏年もその為にある)

毎年、妙見堂で節分の日に星祭り祈願の法要を行っています。今年は2月2日15時より妙見堂で行います。

父宛のハガキ

大岩祥峰様としてハガキが届いた。亡くなってから10年たつが時々届く。

内容は「2021年1月31日をもって閉店することになりました。」との知らせだった。歴史ある男性洋服店のようで、父がこのお店で買い求めたことがあるらしい。お店は神戸・三ノ宮の玄関口といていい場所にある。

閉店の経緯はわからない。コロナの影響かもしれないし、後継者の問題なのか？それとも営業不振なのか？

多くのお店が閉店している。コロナの拡大で移動自粛が叫ばれ、商売をされている方にとっては辛い時期が続く。山崎でも取り壊されているレストランチェーン店がある。



厳冬

霜柱は5cm 氷は分厚く中央が盛り上がりました。年末から松の内は気温が低く凍てつきました。

2月の日程

2月2日(火) 15:00より 星祭り祈願祭 妙見堂

「一富士二鷹三茄子..」ではない。「1にお漏らし2にぐだぐだと説教をたれ3はどこ行く物忘れ」と惨憺たる初夢だ。目が覚めて「良かった現実ではなかった～」と一人安堵。でもいつ訪れるだろうと頭の奥深くに居座っている。そうなった時、私の介護は大変だろうな～と今年も始まった。